



宗教と家族

— 教えの継承と多様性 —

第5回現代と親鸞
公開シンポジウム

菊池 真理子

KIKUCHI Mariko

(漫画家)



【登壇者からのメッセージ】

安倍元首相の銃撃事件をきっかけに、にわかに注目を集めた「宗教2世」の存在。それまでも、親が特定の宗教を信仰していることによって、生きづらい人生を余儀なくされた子どもは多くいたが、ほとんどは自ら口を塞ぎ、助けを求めてはこなかった。なぜなら、親の持つ「信教の自由」という権利と、自分たちの苦しみとが天秤にかけられたらどちらに傾くのか、肌感覚で知っていたからだ。宗教を語ることを避ける日本社会で、誰にも悩みを明かせないまま、自身の運の悪さを呪っていた子どもたち。そんな子どもたちが「宗教2世」の言葉を得て、自らの体験を発信し始めたのが、事件後だ。

一体、家庭の中で何が行われていたのか。2世にとって家族とはどのような存在で、どんな困難を抱くに至ったのか。もちろん個々の宗教や家庭によって、様相は異なる。しかし共通する点も多く、まさにそこから「宗教2世問題」が浮かび上がる。

2世当事者である私の思いも伝えながら 「宗教2世と家族」 について、共に考えていければと思う。

(きくち・まりこ)